雲仙岳360度① ~山麓から~

「雲仙岳の 秘めたるパワー」

●山麓から眺める表情

雲仙岳は360度に異なる表情を見せ、山麓の各地域ならでは風景が地域の方々に親しまれています。













雲仙岳には、現在名前が知られているものだけでも30以上の山々があり、山麓各地域から見える山の組み合わせは異なります。写真中の白↓は平成新山の位置を表し、山並みの形の変化が見て取れると思います。

地域ごとに形・大きさが目立つ山があり、吾妻では吾妻岳、千々石では九千部岳(十千々石断層)、有家では高岩山、島原では眉山が目立ちます(青↑で表示)。





雲仙岳360度② ~海を越えて~

「雲仙岳の 秘めたるパワー」 P 12

●有明海・橘湾の海越しに眺める表情 雲仙岳は360度に異なる表情を見せ、かつての漁師は山の形を見て自分の船の方角を把握していたと言われます。









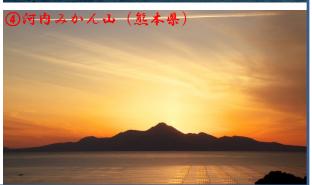




奈良時代に編纂された肥前国風土記には、かつて景行天皇が九州に行幸された際、対岸の長洲の浜(③のやや南)から雲仙岳方面を眺められる「あれは鳥か半鳥か」と気になって尋ねられる場面が登場します。有明海にぱっかり浮かぶ鳥のように見える鳥原半島の姿は、古代から人のの心を捉える景観だったのでしょう。

この景観は、平成24年、荒尾市(③)の市民公募で「荒尾八景」の一景に選ばれています。





雲仙岳360度③ ~陸を越えて~

「雲仙岳の 秘めたるパワー」

●海をまたいで陸越しに眺める表情 雲仙岳は360度に異なる表情を見せ、西九州の広範囲から眺められるランドマーク(目印の山)となっています。

